

マネジメントの本質を求めて ―看護ケアの力を信じ、チームのもつ潜在的な力を引き出す

家庭を築きながら

看護師としてのキャリアを出発する

私は、国立大学医学部附属看護学校の卒業と同時に家庭をもちました。そのため、看護師としてのキャリアは、家庭を健全に維持するための知恵を身に付けながらの出発となりました。

私は学生時代から「一人の人間として様々な経験をしながら、そこに看護がある人生を生きてみたい」、そして「与える愛の実践が自分の仕事」だと思っていました。そしてそのとおりの人生が展開することになったのです。

大学病院時代は小児外科、地域の総合病院に転職してからは、様々な診療科を経験し、中堅時代は学生指導や新人の育成に取り組みながら指導力を学びました。その間、4回の出産と子どもの死、家族の病気など、人生の困難を抱えながらも仕事を続けることができたのは、家族をはじめ本当に多くの方々の協力と支えがあったからです。その方々への感謝と報恩の思いが、私の「看護実践とマネジメント」の核となっています。

チームで取り組んだ褥瘡ケアが 看護管理の原点に

初めて師長に就任したのは、32床の療養型病床に勤務したときです。超過勤務のため、保育園の送迎が困難になり、時間外労働の少ない慢性期病院へ移ったのでした。多くは脳血管疾患による長期臥床の患者さんで、基礎看護ケアの実践が必要だと強く感じました。私

